

平成29年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 准教授

氏名： 瀧川 修吾

研究課題		日本政治史の通史及び専門研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>(1)過去の歴史的事実から、向後の政治をより良くするための教訓を得んとする試みは、政治史という学問の最大の使命であろう。私の場合は、幕末から明治の対外思想や政策に関する専門的研究を進めると共に、これをいわゆる一般的な通史や、平素の講義にフィードバックする作業に取り組んでいる。</p> <p>(2)また、研究教育の方法論や研究を取りまく環境などについての提言、学界全体の質の向上に寄与するような活動も行っている。自らが研究の主体となるだけでなく、特に2016年6月より日本出版学会出版法制研究部会副会長となって以降、当該部会の企画運営もしている。</p> <p>(3)さらに、歴史的なアプローチを踏まえ、現在の政治・法制についても研究を行っている。具体的には、権利擁護と成年後見制度、更生保護などの研究に取り組んでいるが、来年度以降、危機管理特殊講義2の中で“日本や世界における移民と移民政策の歴史”および“日本におけるグローバリゼーションの諸相”について講義をするため、それらの研究も鋭意進めている。</p>
	研究成果	<p>(1)については、研究自体は進んでいるが、遺憾ながら書籍や論文といった形での公表はできていない。もともと、政治学の講義や、日本政治史論特講のスクーリング等で、研究の成果を教育に活かすことはできている。</p> <p>(2)については、日本出版学会での活動が主であり、具体的な成果は下記「研究業績」にある通りで、いわゆる「まとめサイト」が社会に及ぼす悪影響について、健全なジャーナリズムを疎外(Entfremdung)に陥れるとして、少しく提言を行ったほか、同学会の法制研究部会を企画し、世話役や司会を行った。</p> <p>(3)については、具体的な成果は権利擁護と成年後見制度につき、下記「国家試験対策用語集」が公刊される。なお、同稿には「外国人と社会法」という項目があり、実は、上記移民政策に関する研究成果が、一部ここに反映されている。</p>
研究業績	・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数	瀧川修吾「国家試験対策用語集」(福田幸夫・森長秀編『権利擁護と成年後見制度 第4版』, 弘文堂, 2018年3月予定), 252頁～266頁を担当
	・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所	瀧川修吾(司会[議題設定兼取り纏め役])・宮下義樹(問題提起者)・小向太郎(討論者)「まとめサイト問題と編集者の責任—法的問題を中心として—」, 日本出版学会 2017年度春季研究発表会ワークショップ, 2017年5月13日, 於日本大学法学部
	・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等	<p>○日本出版学会出版法制研究部会の企画・運営</p> <p>宮下義樹「図書館の機能と役割に関する一考察」(2017年5月11日:第1部)</p> <p>田上雄大「表現の自由と歴史解釈」(2017年5月11日:第2部)</p> <p>田上雄大「ヘイトスピーチ解消法と表現の自由との問題」(2017年9月28日開催)</p>